

45 地域生活を支える駅周辺のまちづくり

(1) まちの拠点機能を向上させる

●駅周辺地区の整備

区内の駅周辺では、交通広場やアクセス道路などの整備が必ずしも十分ではない状況がある。また、利便性や安全性を高め、商業活動の活性化を図る必要がある。

このため、区内の各駅周辺を中心核、地域拠点、生活拠点と位置付け、交通広場や道路の整備を進めている。さらに、便利でにぎわいのある商業環境等の生活利便性を向上させるなど、まちの拠点としての整備を進めている。

●練馬駅周辺整備

練馬駅周辺は、「練馬区都市計画マスタープラン」で『練馬の中心核』と位置づけられている。これまで、道路や駅前広場をはじめとした都市基盤の整備など、まちづくりを推進してきた。

駅南口の豊玉北五丁目地区においては、区内で初めて「街並み誘導型地区計画」を活用した「練馬駅南口地区地区計画」を平成 16 年 12 月に都市計画決定した。また、道路の無電柱化が 23 年 3 月に完成した。

練馬駅南地区の商店会、町会、自治会有志が中心となり、まちづくり活動の理念と目標像、方針について定めた「練馬駅南地区まちづくり憲章」を 25 年 3 月に策定し、自主的なまちづくり活動に取り組んでいる。

駅北口の練馬一丁目地区では、道路の拡幅整備に併せたまちづくりの実現を図るため、「練馬駅北口地区地区計画」を 21 年 6 月に都市計画決定した。

●石神井公園駅周辺整備

石神井公園駅周辺は、公共機関や商業施設が多く、周辺住宅地域を含めた地域の中心的役割を果たしている。また、都立石神井公園の玄関口でもあり、地区外からの来訪者も少なくない。

このような状況にもかかわらず、駅に通じる道路は狭く、駅前広場や道路、踏切など駅周辺の交通環境の整備が十分とはいえない状況であったため、鉄道の高架化や駅前広場の整備を行い、現在、都市計画道路の整備を進めている。

1 整備の方針

区では、石神井公園駅周辺地区を区西部における地域拠点の一つと位置付け、平成 15 年 6 月に「石神井公園駅周辺地区まちづくり全体構想」を策定し、つぎ

のような整備方針に基づいて総合的なまちづくりを推進している。

- (1) 鉄道の連続立体交差事業の計画にあわせて、補助 132 号線、補助 232 号線、南口駅前広場、富士街道の整備について、地域住民と検討・協議しながら進めていく。
- (2) 基盤整備と連携して、駅周辺の土地利用の転換を適切に誘導し、災害に強く、石神井公園と一体となったみどりを大切にしたいまちづくりを進めていく。

2 駅周辺まちづくり事業の推進

区では、これまで「石神井公園駅周辺地区まちづくり全体構想」に基づき、南口駅前広場の整備や周辺の都市計画道路の整備などを行い、駅周辺のまちづくりを段階的に進めてきた。

平成 29・30 年には、駅南口西地区市街地再開発事業について検討状況報告会を開催し、30・31 年には、補助 132 号線周辺地区における地区計画によるまちづくりのルールを検討する意見交換会を開催した。2 年 7 月には補助 132 号線周辺地区等に関連する地区計画変更、南口西地区の市街地再開発事業およびこれらに関連する都市計画の原案説明会等を開催し、12 月に都市計画決定した。4 年には、都知事から認可を受けて再開発組合が設立され、再開発事業に着手した。

現在は、10年の再開発ビルの竣工に向けた再開発組合の取組を支援している。

●上石神井駅周辺整備

上石神井駅は急行停車駅であり、駅周辺には多くの商業施設が立ち並ぶなど、まちの発展の可能性を多く秘めた地域である。しかし、交通広場がなく、歩行者や自転車、自動車などが駅に通じる狭い道路に集中するうえ、踏切遮断の影響もあり、交通渋滞などが課題となっている。そのため、交通広場を含む外郭環状線の 2（千川通り～新青梅街道間）の整備と西武新宿線の立体化に取り組んでいる。

外郭環状線の 2 は、平成 27 年 12 月から測量を行い、30 年 12 月に事業認可を取得し、事業に着手した。また、西武新宿線（井荻駅～西武柳沢駅間）の連続立体交差事業は、3 年 11 月に都市計画決定され、6 年 3 月に事業認可を取得し、事業に着手した。現在はこれらの整備に向けて取り組んでいる。

1 整備の方針

平成 20 年 3 月に重点地区まちづくり計画を策定し、

3年6月には外郭環状線の2の事業化や鉄道の連続立体交差化計画の具体化に併せて、その一部を改定した。改定後の整備方針に基づき、まちづくりを推進している。

2 まちづくり事業の推進

区では、重点地区まちづくり計画に基づき、外郭環状線の2と交通広場の整備に加え、6年3月に「上石神井駅周辺地区地区計画」を都市計画決定し、活気ある商店街と良好な住宅地が調和した災害に強い市街地の形成を目標に取組を進めている。また、駅北西地区では再開発準備組合が設立され、建物の共同化に向けた検討が進められており、現在は、再開発準備組合の活動を支援している。

●生活拠点の整備

練馬駅・石神井公園駅・大泉学園駅・光が丘駅・上石神井駅を除く各駅周辺地区を生活拠点として位置付け、地域の状況に合わせて道路整備などと連動しながらまちづくりを進めている。

1 江古田駅周辺地区

平成30年度まで江古田北部地区密集住宅市街地整備促進事業によるまちづくりに取り組んできた。災害に強く、安全で快適なまちの形成を誘導していくため、18年6月に「江古田駅北口地区地区計画」、30年3月に「江古田北部地区地区計画」、元年11月に「江古田南部地区地区計画」を都市計画決定している。

2 中村橋駅周辺地区

平成17年1月に「中村橋駅南口地区地区計画」を、25年3月に「中村橋駅北口地区地区計画」を都市計画決定し、住環境の保全と活力ある市街地の形成を目指している。

また、美術館のリニューアルに併せて、中村橋駅周辺を「だれもがアートを感じられるまち」とするため、7年3月に「美術のまち構想」を策定した。構想に基づき、中村橋駅周辺のまちなみ整備、アートとまちを繋げる事業の充実などの取組を進めている。

3 富士見台駅周辺地区

平成23年2月に重点地区まちづくり計画を策定し、貫井・富士見台地区密集住宅市街地整備促進事業によるまちづくりを行っている。

平成30年12月に「富士見台駅北部地区」、5年6月に「富士見台三・四丁目環八南地区」の地区計画を都市計画決定した。併せて、同地区において新たな防火規制区域の指定を行うなど、災害に強く、安全・快適なまちを目標に取組を進めている。

4 保谷駅周辺地区

保谷駅周辺地区まちづくり協議会の提言を踏まえ、地域住民が協議を重ね、元年12月、建替え時の自主

ルールである「保谷駅南口駅前通りまちづくり宣言」を策定した。安全で快適な環境を目指し、区も連携してまちづくりに取り組んでいる。

5 東武練馬駅周辺地区

元年度まで北町地区密集住宅市街地整備促進事業によるまちづくりに取り組んできた。災害に強く、安全で快適なまちの形成を誘導していくため、平成22年11月に「東武練馬駅南口周辺地区地区計画」、27年1月に「北町二丁目西部地区地区計画」、元年8月に「北町一丁目地区地区計画」を都市計画決定している。

6 武蔵関駅周辺地区

平成26年5月に重点地区まちづくり計画を策定し、西武新宿線の立体化に併せた交通広場や補助230号線などの整備に向けて取り組むとともに、まちづくりを進めている。西武鉄道新宿線（井荻駅～西武柳沢駅間）連続立体交差事業や武蔵関駅交通広場等は、3年11月に都市計画決定、6年3月に事業認可を取得し、事業に着手した。現在はこれら整備に向けて取り組んでいる。

7 上井草駅周辺地区（下石神井四丁目）

平成26年11月に重点地区まちづくり計画を策定し、西武新宿線の立体化に併せ、計画の実現に向けた取組を進めている。

8 桜台駅周辺地区

4年9月に重点地区まちづくり計画を策定し、駅周辺では、周辺の環境と調和した街並みを誘導するとともに、地域住民が買物や交流を楽しむ日常的なにぎわいを創出する駅前空間の整備を検討している。

また、5年度から桜台東部地区密集住宅市街地整備促進事業に着手し、災害に強く、安全・快適なまちづくりを進めている。